

## 第2回東京宝島推進委員会 発言録

日時：2017年8月1日（水）16時～17時30分

場所：東京都庁第一本庁舎7階大会議室

### ■開会

#### 【事務局】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから第2回「東京宝島推進委員会」を開会いたします。

本日はご多忙の折、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます東京都総務局多摩島しょ振興担当部長の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元には議事次第の下に、委員名簿、それから参考に、座席表と東京の島の特産品のカタログをお配りしております。ご確認くださいませでしょうか。

また、本日、テーブルの上、ちょうどディスプレイ側になりますが、島の焼酎をはじめとした特産品をセレクトして展示させていただいております。

### ■知事挨拶

#### 【事務局】

それでは、開会にあたりまして小池知事からご挨拶させていただきます。

#### 【小池知事】

お忙しいところ宝島推進委員会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、皆様それぞれ島を実際に巡っていただいて、宝探しにご尽力いただいておりますこと、心から感謝を申し上げます。

と申す私も、先日土曜日には新島と式根島の方に行ってまいりました。あの緑のガラスは、新島のガラス工場の作品だということで、ちゃんと認識いたしました。

くさやもいただいてきましたし、また新島は、ちょうどその時は台風の影響で、小笠原は今回大変な雨になったわけですが、その影響で波が使えないということで、危険だということで、サーフィン大会がちょうど催される予定になっていたわけですが、これが中止になってしまったということでございました。いずれにしても、今回も海水温泉につかったり、足湯をしたりと満喫して戻ったところでございます。

島は本当に個性に富んでいて、そして、それぞれの産品も多様性がある、これをどのようにすれば、国内、そしてまた世界へ広げることができるかということで、皆様方をお願いしているところでございます。3月の第1回委員会で、お二人の委員からプレゼンテーションを行っていただきました。それから、6月、7月にかけては、それぞれの委員の皆様が現地の視察をお願いするということで、ご苦労をかけたと思います。今日はそういう中で、さらに深掘りをして、そして、宝島探し、宝物探し、宝島推進ということで、よろしくお願いを申し上げます。

なお、本日、途中でお飲み物を提供させていただきますが、明日葉茶になっております。だんだん島に染まっていくという、この宝島推進委員会でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

## ■委員紹介

### 【事務局】

ありがとうございました。

続きまして、本日出席の委員の皆様をお手元の名簿順にご紹介いたします。

大洞達夫委員です。

楓千里委員です。

河野奈保委員です。

山田敦郎委員長です。

なお、本日、野口健委員ですが、所用によりご欠席でございまして、野口健事務所の野口靖子様今回の会議にお越しいただきまして、傍聴していただいております。

また、アレックス・カー委員につきましても、急用によりご欠席とのご連絡がございましたので、ご報告をさせていただきます。

それでは、ここで、今回初めてご出席になる委員の方から、一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。

まず始めに、大洞委員、お願いいたします。

### 【大洞委員】

はじめまして。前回欠席して申し訳ございませんでした。それで追いついて島に行こうと思ったら、飛行機が飛ばず、まだ皆さんに追いついておりません。

前回欠席したのでビデオでご紹介いただいたと思うのですが、以前沖縄のブランド委員会というのに出させていただいたことがあって、その経験も活かしながら、東京の島について、知れば知るほど色々なものがあるなということを今すごく感じているので、ぜひ何かお役に立てればと思っております。

よろしくお願いいたします。

### 【事務局】

ありがとうございます。続きまして、河野委員、お願いいたします。

### 【河野委員】

あらためまして、河野と申します。よろしくお願いいたします。

前回残念ながら出席することができなかったのですが、私がおります楽天という会社も、日本を元気にしたいというコンセプトで20数年前につくった会社で、そういうものにすごく共感をして入社したということがあります。20年を経て、私があらためてこの東京を盛り上げるというところで、こういう形で参加させていただくことをとても光栄だなと思っております。私自身、東京生まれ、東京育ちなんですが、残念ながら、この離島をあまり訪問したことがなくてですね、今回、あらためて視察という形で大島に行かせていただき、本当に東

京にいながらこんなに自然があって、こんなに宝物があるんだというところにすぐ共感をいたしましたし、あらためてこれを盛り上げていかなければと強いミッションを感じました。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【事務局】

ありがとうございました。

それでは、このあとは、山田委員長に議事の進行をお願いいたします。

### ■ 委員からの視察報告

#### 【山田委員長】

はい、委員長の山田でございます。

本日も委員の皆様にご協力をいただきまして、実りある議論にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の議事次第に従って、今日の議題に入っていきたいと思いますが、いまご案内もございましたように、委員の皆さん、大洞さんを除いてでございますが、現地視察をしていただいております。この視察、非常に有意義であったと思います。前回の委員会の中で、事務局に対して、ぜひ現地に行かせていただきたいというふうをお願いをいたしまして、それを聞き入れていただいたわけでございます。

6月、7月と各委員が手分けをしまして、この島々を巡ってまいりましたので、本日はその報告というか、どういう魅力を発見され、どういう課題を見つけれられたか、ご紹介いただければなというふうに思っております。

河野委員と私は、6月2日、3日に大島に行つてまいりました。本当は利島も行く予定だったのですが、あいにく天候が悪化して、船が港に着けないということで、利島に上陸するのは中止になってしまいました。

それから、楓委員には、6月11日、12日に三宅島と御蔵島に行つていただいた。7月14日、15日で新島、式根島、神津島にも短い期間で3つ行つていただいて、全部で5島まわっていただいております。

さらにその前にも色々島に対してご経験・知見が豊富にあるということで、また後でご紹介いただきたいと思っております。

大洞委員は、前回の委員会にご欠席されましたが、6月25日、26日に私と一緒に八丈島、青ヶ島に行くということで、事務局の皆さんと一緒に朝の8時に羽田空港第二ターミナルに集合したところ、集合時間の5分後に運休であるというアナウンスが流れまして、がっかりして羽田から帰ってきたところですが、まだどこかでリベンジしたいと思っております。

こんな形で、交通機関の欠航・欠便で結局島には渡れないことがあったり、この辺、やはり島の観光にせよ、特産にせよ、振興に対する妨げになるのではないかなと思ったりもするわけですが、皆様方、委員の視察報告をお聞きした上で、議論をしていく参考にしたいと思います。

お手元のタブレットで、視察の時の写真等が出てきますので、これをご覧になりながら、各委員の報告を聞いていただきたいと思っております。

まず、大島に、私も参りましたけれども、一緒に行つていただきました河野委員から、じっくり丁寧にご報

告をお願いいたします。よろしくどうぞ。

#### 【河野委員】

はい、わかりました。事前に打ち合わせをしてなかったのが、いま急にふられてしまいました。写真を見ていただくとおわかりになるように、山田委員長とともに大島に行っていました。

わたしのほうでひとつキーワードとして今回の視察で思ったことが、最近Instagramであるようなフォトジェニック、いわゆる写真映えするところが正直かなりありまして、本来であればSNS等で広まっていれば、若者が来るということがあると思うのですが、このフォトジェニックのところなかなか認知されていないのかなと思ったところでもあります。

最初に、写真にあるように、地層切断面。ここがすごく面白くて、バス停があるのですが、バス停の停留所の名前も地層切断面となっている。これだけでもフォトジェニックだなあというところで、若者はすごく好きではないかと思います。こういうことが歴史にもなっているし、さらに今の人達にも訴えられる場所ではあるなというのがひとつ思ったところです。

あと2つ目の写真として、三原山があります。東京都のなかにこれだけの活火山があつて、さらにここ何年か前に実際に噴火があつたということで、溶岩がどう流れてきたのか、本当にそこまで歩いて、場合によっては触ることができる場所が東京都にあるというのは、頭ではわかっていましたが、実際行くとまた違う感覚があると思いました。

あとは日本有数の椿。この油をということで工場を2つまわらせていただきました。正直、私はきっかけ次第ではこの椿油を流通させることができるので、そうすると、売上にも貢献できるのではないかなと思っていたのですが、状況を聞くと、生産ライン自体にかなり課題があり、量産するという意志を持っている生産者が多くはないということが結構残念でもありながら、しかし仕組みとして作らないといけないとも思いました。

その一番の問題となっているのが、椿の実を収集を今は手作業でされていらっしゃる。それも、ある意味ボランティアではないですが、地域の人たちが採ったものを集めて、その時にお金にさせていただいて買い取るやり方をしているようで、実を集めることで生計を立てるところまではいかないので、皆さまボランティアの延長でやられているというところがあります。そうすると、椿の実自体がなかなか手に入らないので、生産量も増えない。というところがずっとジレンマになっていることなので、この辺をもしかしたらサポートして、ネットワークを使って集めることによって生産を増やすことができるかなと思いました。

また手作業でやられていて、その機械自体も古いもので歴史があるものなので、場合によっては、そういうものをうまくアピールすることで、椿油の価格自体に付加価値をつけて上げることができるのではないかと考えた事例であります。

あとは、港の周りであったり、情緒ある、かなり昭和を感じつつ、そこでしか味わえない風景があるので、こういったものもうまく活用したいなと思ったところでございます。

#### 【山田委員長】

ありがとうございます。前に出て報告をと思いましたが、遠いので、ここでやらしてもらおうかなと思います。

ダブるところは端折りますが、今おっしゃっていた椿油の実を集めるのは高齢の方々のバイトになっていて、集めていくらで買い取るというようなことをされている。利島はJAがあつて、わりと計画的に生産できている。

本当に聞きようによっては風前の灯なのですが、そういったところをどうするかということも踏まえながら後ほどの議論につなげたいと思います。

私の方は写真を結構てんこ盛りにいたしましたので、ざっと見ていただきます。

- ・（このスライドが）大島切断面。バス停の名前が同じのことですが、「地層断面前」。この名前がまた素晴らしいなと思っております。こういうバームクーヘンを作ってはと言ったら、「もう作っています」という話で、考えることは人は同じだなと思ったところです。
- ・こちら（のスライド）が、ちょうど断面前から見渡すところの利島でございます。宮塚山が見えております。新島にも宮塚山という同じがあり紛らわしいなと思っております。このちょっときれいな形の山が見えています。
- ・こちら（のスライド）が、私が推しまくっておりますが、波浮港にある元旅館です。港屋旅館を民芸館として開放しております。そこに入ると、こういうマネキンがどうにも不気味なのです。誰かに似ているんですね。これボタンを押すと動く、非常に変わった仕掛けになっております。そういう面白い元旅館があったり、伊豆の踊子の一行が泊ったと言われています。港町が横にずっと広がっておりまして、街並みも散策すると非常に面白いなと思えました。こういうところに、大島牛乳という地元でとれる牛乳があるのです。（島で）牛を飼っています。その大島牛乳アイス限定 1 個という張り紙があって、何だろうと見ると、限定 1 個 150 円と書いてあって、後ろの文字が消えていて面白いなあと言いながら歩いておりました。
- ・この波浮の港を上から眺めると、形が真ん丸なのです。もともとここは火山の火口だったのです。そこに水が入ってきまして、ある方が港を造ったのであります。
- ・この高台には、「アンコ椿は恋の花」という、都はるみさんの歌の歌碑があります。ここに波浮港という（歌詞がでています）。これをなぜか私は歌えてしまう、恐ろしい世代でございます。
- ・そしてこちら（のスライド）が、筆島。ぽーんと真ん中に小さな岩がありますが、これは溶岩が盛り上がってここに残っているということらしいですが、パワースポットです。
- ・そしてこちら（のスライド）が、カルデラ式の活火山ですけども、三原山があります。こちらは散策には非常に向いております。とぼとぼ歩いていきますと、噴火の跡、直近で 31 年前なのですが、溶岩がどろどろと流れた状態で固まったのも見るすることができます。こんな場所が東京都内にあったなんてという驚きとともに散策をいたしました。
- ・そしてこちら（のスライド）は、高田製油所さんにお邪魔した時の風景でございます。実際に古い機械を使い、おそらく明治から創業されている。販売台帳が手書きで、なかなか達筆で読むことができません。右側の機械も古いのです。いわゆる搾油機、これで種を絞って油をとる。この白い布が巻いているのは、ここに油粕が貯まるようにできているフィルタでございます。（3 人が映っているスライドの）右の方がオーナーの方です。
- ・そしてこういう（スライドの写真のように）道の傍らに突然地面がぱかっと割れているような場所がありまして、奥に行くと何もなかったりします。
- ・宿のご飯です。赤門というところに泊まらせていただいたんですが、とても素晴らしいご馳走ですね。温かいサービスを受けることができました。ただ残念ながら、私は 1 品 1 品、ご紹介を受けることができなかったのですが、こういうのも売り方を考えていくと良いのかなと思っております。

- ・ そしてもう一軒、株式会社椿さん。大島の出身でない方が営んでいる、最近興された会社で、椿油を作っている。こちらは近代的な工場でございます。製品もいろいろ、パッケージも工夫されています。
- ・ 最後に大島公園のほうにまいりまして、そこでいろいろと見聞いたしました。植物園もあれば、いろいろな種類の椿が咲いておりますので、その椿の説明。何十種類とあるようですが、これ（スライド）は、一番多いタイプの藪椿です。椿の展示もさることながら、動物園がありまして、動物の展示もあります。日本全国で一番大きいケージ（鳥かご）があります。フライングゲージといまして、15種類の鳥が飼われている。本当に自然の中にいるようで、伸び伸びとしております。ラクダも伸び伸びとしております。レッサーパンダは寝ております。そして、問題のキョンですね。こいつは悪いやつなので、かわいのですが、いま逃げたキョンが非常に繁殖してしまって困っているというような話も聞いております。こういう動物園もあれば植物園もある、色んなものがあります。
- ・ そして土産屋さんもありまして、お魚をおばちゃんが売っている。大変に楽しい島であります。そしてなんとこのターミナルから、私の家は世田谷にあるのですが、行きは船だったんですが、帰りは飛行機に乗りまして、なんと大島空港を離陸して、1時間半後に調布空港経由で私は家に帰ってました。大島から自宅の玄関入るまで1時間半だった。こんな近いところに。こんな感じでひとつ飛びで行けるところに、こんな素敵なものがいっぱいある、まさに宝の島だなと思った次第であります。
- ・ 枚数が多かったので、端折りながらご説明いたしました。

それでは、今度は楓委員から、三宅島、御蔵島、新島、式根島、神津島についてご報告をいただきたいと思います。よろしくどうぞ。

#### 【楓委員】

このたびは貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

支庁の皆様、各村役場の皆様や村長さんには大変お世話になりました。御蔵島と新島の村長さんとは、夜焼酎をご一緒しながらお話をするチャンスがあり、光栄でございました。

小笠原は国交省小笠原振興審議会の委員の関係で近年行っておりましたが、伊豆七島に行く機会がなかなかなく、それこそ駆け出しの編集者の頃に、よく夜行船便で通っていた以来の島への旅でした。

数十年振りに東海汽船にりましたが、たまたま海が穏やかでしたので快適な船旅を楽しみました。印象的なのは、船が桟橋を離れるときのポーという汽笛。これがなぜか胸に染みて、キュンとしてくる。そして、それぞれの島に寄港してまた離れる時に汽笛が鳴る。こうした胸がキュンとする機会を徐々に経験させていただきました。

それから、さきほど山田委員長もおっしゃっていましたが、調布から飛行機で行く機会があり、それこそ東京の街、横浜の街が箱庭のように見え、多摩川の蛇行具合が手に取るようにわかるのです。飛行時間は50分前後と短時間ですが、空中散歩を大いに楽しめました。

最初に伺いましたのは、三宅島と御蔵島で、この二つの島、「一緒ですよね」と言うと、島の方に怒られます。「文化が全然違う」と。但し、共通のキーワードで宝物は「ネイチャーガイド」。海と山をそれぞれ案内

してくれるガイドさんが、少なくともこの二つの島の宝物だと強く感じました。

特に、三宅島は2000年に噴火し、全島避難で2005年まで帰島できなかったのですが、その当時の爪跡が島内のあちこちにあり、火砕流で押しつぶされた小学校もそのまま残っています。ここは見学コースが整備されていて、ガイドさんと歩くことができます。

次のスライドはアカコッコ館です。アカコッコという、お腹が赤い貴重な三宅島の鳥がいて、日本野鳥の会の方がレンジャーとして鳥の保護と、この施設を管理しつつ、お客様を案内しています。この要もガイドさんなのです。この近くにある大路池の周辺も自由に歩けますが、やはり専門知識があるの方と一緒に、植生や鳥の話を聞きながら歩くと、理解が深まり、興味が沸き、三宅島への関心も高まるはず。ガイドさんの役割は非常に重要だと思います。

次のスライドは、知事もいらしたとのことですが、ボルダリングの施設です。たまたまここを訪れた時に、クライミングのワールドカップの審査員をされていた日本人の女性の方が、お仲間を連れて練習していたので、お話を伺ったところ。「ここは十分に世界レベルのトレーニングができる場所です」とおっしゃっていました。スポーツツーリズムの拠点として、新しいスポットになると思いますし、オリンピックの会場としては今からでは難しいかもしれませんが、キャンプ地として立候補も可能なのではないかと考えております。

次に御蔵島です。御蔵島は皆さんご存知のとおり、とにかくイルカの島として知られています。イルカと一緒に泳ぎましょう、イルカを見に行きましょうとPRも盛んですが、実は山も素晴らしい。最高峰が海拔677メートルなのですが、その山頂付近では本土の2000メートル級の高山植物とほぼ同じ植生が見られる貴重な島です。御蔵島では、山へのハイキングはガイドさん同行が義務付けられており、勝手に入れないルールになっています。ここでもガイドさんの役割が非常に大きいと思います。

そして、メインのイルカウォッチングです。驚いたことに、シーズン中、宿はほぼ満室で、30代から40代の女性が多いようです。御蔵島まで来て、イルカウォッチングするのは、コストが高めですので、可処分所得が多い層がメインとなるのでしょうか。それから女性の一人旅も多いようです。日焼けしてスレンダーで長い髪の女性が目立ちました。イルカウォッチングには賛否両論あります。イルカの生態や環境破壊の問題がありますが、御蔵島ではその辺りをきちっとコントロールして、三宅島と共同で、1日にイルカウォッチングができるお客様の数をしっかり制限しています。イルカが疲れないように、ある時期を区切り、それ以降はイルカウォッチングをしない、といったルールをつくり共生に努めています。この辺りをしっかり説明をして、動物愛護の方々への理解を深めてもらう努力は、継続して必要になると思っております。

もう一枚の写真は、御蔵島特産の黄楊の木なのですが、実は将棋の高級な駒は御蔵島産の黄楊が原材料と初めて知りました。ここで小さくカットされた材が山形県の天童に送られて、加工され1セット数十万円の駒となり、羽生さんなどの名人達がお使いになっているようです。今話題の藤井君もこれから使うようになるのかもしれませんが、御蔵島の村長さんは、できれば名人戦やタイトル戦を御蔵島で開催したいとおっしゃっていました。実現するにはアクセスの問題があります。冬場の就航率20%、その他の季節でも就航不安定の状況では、おそらく将棋協会も二の足を踏むところかもしれませんが、実現すると「将棋の駒、黄楊の島、御蔵島」としてイメージアップに繋がるはず。す。

そして、先ほど来申し上げているガイドさんについては、様々な課題があると思います。リピーターの方はお知り合いの民宿や、ガイドさんに直接予約をされるのでしょけれど、本来であれば島の特性を活かして、ワンストップでリクエストに応える体制が望ましいと考えます。例えば、山を歩きたい、イルカと遊びたいという

要望を、ワンストップで受けて、宿やガイドさんの情報提供をし、手配もできるのが理想かと思います。それぞれ利害関係があるので簡単なことではないのですが、今後インバウンドも含めて持続的に発展させていくためには、ワンストップ機能は必要になってくるのではないかと思います。

それから一人一人のガイドさんの経験やレベルが判る見える化も必要になってきます。

7月には、徐々に夜行船便で神津島に伺いました。

あまり海が荒れていないこともあったのですが、デッキに白人系の方たちが家族連れで100円の毛布を借りて寝ているのには、驚きました。新島で下船したようですが、彼らは別に貧乏旅行をしているのではなく、無駄なお金は使わないというポリシーがあるように見受けました。下手に室料を払うのではなく、どちらにしろキャンプグッズを持参しているので、デッキでも良いかと。欧米系の方でしたが、合理的に過ごしているのが印象に残っております。

神津島は、海が豊かで、きれいに海岸や遊泳場も整備されているのが魅力ですが、ここのお宝はなんといっても金目鯛です。年間の水揚げは約10億円と伺いました。ここで揚がった金目鯛が、築地はもとより伊豆半島の下田や稲取などにも運ばれているようです。今回初めて知りましたが、もう少し「金目鯛の神津」としてアピールしてはどうかと思いました。

お昼はもちろん美味しい金目鯛の煮付けをいただきました。

神津島は伊豆諸島の中でも珍しく水が豊かな島で、その水を活かした地ビールの醸造が始まっています。私が伺った際は残念ながらまだリリースされていなかったのですが、8月上旬には発売されるようです。特産の明日葉風味ビールなど、神津島らしさを出していきたいとおっしゃっていました。

ここでちょっと脱線しますが、スライドの右側に映っていらっしゃる女性が、このヒューガブルワリーのオーナーなのですが、彼女のようなカッコいい女性と神津島、新島で出会えました。写真の彼女もそうですし、例えば新島で泊まったロッジの料理人のお母さんと娘さん、新島のランチで伺ったレストランの女性シェフなど。島といえばおばあちゃんのイメージがありますが、おばあちゃんだけではなく、颯爽とした女性達が活躍している印象を持ちました。島外での経験を活かして、この島で新しい何かを実現するぞ！という意志を持たれている女性に出会えたのも大きな収穫でありました。

次は新島ですが、一言でいうと輝く白い島そのものでした。白い砂浜が続き、その砂にコーガ石のキラキラが混じって輝いて見えます。島内では外国人の方も多くお見かけしました。無料のキャンプサイト、無料の露天風呂などが魅力で来島されているのだと思います。島の観光協会の方のお話を伺っていても、この島は外国人の受け入れにあまり抵抗感を持っていない印象を受けました。体験制作させていただいたのが、いま手に持っておりますこのグラスでございます。このオリーブの色が出るガラス材は、イタリアのリバリ島と新島しかないそうです。ガラス作品を見るだけでなく、実際に制作する体験ができるのも貴重です。前にあるディスプレイに知事がお作りになったものもでございます。知事の作品のほうがおそらく制作時間が短いかと思いますが、このグラスでも30分ぐらいでした。このグラスで今晚、焼酎をオンザロックで飲むのを楽しみにしています。

新島はガラスアートの島としてもっと国内外にアピールしたほうが良いと思います。海外の著名なガラスアーティストが毎年新島に数日間滞在し、作品を制作する「ガラスアートフェスティバル」が30年も続いています。これは国内でも卓越した事例です。お土産用のガラス作品を制作している観光地は多くありますが、この作品は見事にアート。市場価格だと何千万円になるものもあると伺いました。また、アートミュージア



ムも素晴らしい。これほど自然光が入る中で、ガラスの輝きが見られる美術館は国内でもなかなかなく、貴重です。ユニークベニューの候補としても考えられるかもしれません。

この館長でありアーティストの野田さんによりますと、ある日海賊船がやって来て、作品を全部持って行ってしまったら何十億円の損失になるそうなのですが、なかなか警備体制が取れないのが悩みとおっしゃっていました。

次は式根島です。ここはとにかく温泉の島です。知事もご覧になったと思いますが、三ヶ所の海中温泉はそれぞれ特徴があります。昭和 11 年に、東海汽船と上野精養軒が共同でリゾートホテル「式根温泉ホテル」を開業し、与謝野晶子など文人も訪れています。そこで、もう一度、「豊かな温泉」をキーワードにいろいろなものを作り直すと、可能性が広がるかと思います。

5 つの島に伺いまして、課題は、やはり宿泊施設。施設、部屋数、サービスなど大きな問題だと実感しています。

ここで少し付け加えさせていただきますが、東京のお祭りというと、三社祭り、神田祭りや、府中の暗闇祭りなど、勇壮なお神輿祭りのイメージがあります。伊豆の島々には、例えば、新島には顔を布で覆って踊る大踊り、神津島のカツオ釣り神事は、神社の境内でカツオ釣りをしているかのように踊るお祭りです。それから、小笠原には南洋踊りという軽快な踊りもあります。島々に受け継がれている伝統的なお祭りや踊りを改めて東京の文化として P R し、多くの方に知ってもらう必要があると思っております。以上でございます。

#### 【山田委員長】

はい、ありがとうございました。

5 つの島を短期間で回っていただいたということですけども、それぞれ島の特徴は違うのですよね。お隣の島、すぐそこに見えている島だけ、カルチャーは違うというのを少し発見されたのかなと思います。はい、ありがとうございました。

それと今回、小笠原諸島への視察は、一日がかりで行かなければいけないので設定していませんが、楓さんは以前にだいぶ長いこと行ってらっしゃった、何か月とかではないのでしょうか。少しその時に体験されたことの一部でもお話いただくとありがたいのですが。

#### 【楓委員】

小笠原はご存じの通りエコツーリズムの先進的な取組をした島で、2016 年に「小笠原村エコツーリズム協議会」がエコツーリズム推進法認定団体になりました。私は世界遺産になる前から伺っていたのですが、先ほどワンストップと申しましたが、島内が最初からまとまっていたかという点決してそうではなかった。やはり 10 年ぐらいの時間をかけて、世界遺産になり、それから 3,4 年経って今、島が一丸となって協議会を作り、島内の全ての団体が協議会に入りまして、エコツーリズムを推進していきましょうとなった。自然との共生だけでなく、島の文化や暮らし有様も一緒に世界に発信していきましょうということが、やっとまとまったという感じで、これからどんどん世界に発信する、エコツーリズムのお手本になる島だと思います。

もうひとつは、知事はご覧になったかどうか分かりませんが、「おがさわら丸」が港を離れる時に、小笠原流

のお見送りというのがあります。島の人がほとんど総出で、まず棧橋で手を振ってくださるのですが、漁師さんたちが並走する船から豪快なお見送りをしてくださる。船から海中に飛び込む様子に、胸にキュンと迫るものがございます。沖縄など他の島にもあるのですが、大掛かりなお見送り風景も小笠原の宝ではないでしょうか。

#### 【山田委員長】

船で行ったら、そういう歓迎とお見送りが受けられるということですね。わかりました、ありがとうございます。

知事も冒頭でおっしゃっておられましたが、週末に新島、式根島に行かれたということでございますし、小笠原にも行かれたことがあるのですよね。ちょっとその辺りをですね、それ以外にも多くの島に行かれていますが、東京の島の印象を何か簡潔にお答えいただければと思います。

#### 【小池知事】

ありがとうございます。

椿祭りであるとか、現地の色々なオケーションに合わせて行くようにしておりまして、有人島11のうち、これまで9つ、あと2つで全部回るようになります。

いまご報告いただいたように、共通の問題点は、2つ大きなものがあります。

1つめが、宝物の大きさに地元の方があまり気が付いておられない。そこをどうしようかと、これまで色々あったのでしょうかけれども、私が客観的にみると、宝物の存在をどうしたらよいかよくわからない。だからこの宝物推進委員会をやっているのですが。

2つめに、やはり最大の問題は宿泊だと思います。現状の宿泊施設は民宿が多いこと。あまり大きなホテルを建てることの意味、巨大なものをつくるというのはエコの観点からどうかとも思ったりもします。だけれども、以前に、山田先生と大洞先生と一緒に沖縄の振興をやっている際、その中のメンバーの（星野リゾートの）星野さんが沖縄にはまって、竹富島にホテルをつくっちゃったというのが、あの時の我々の一番の成果ですけども、そういう島の良さを理解した上で、島にあった宿泊施設をひとつどこかにつくるだけで、大きく化けるのではないかと思います。

ただ、八丈島に私も今回の最後の選挙戦の時に行けなかったように、アクセスの確保ということは、これほどの島にとっても大きな課題ということだと思います。

逆に言えば、一言でいうと手つかず。東京都も色々やってきたと思いますが、だけれども、あまりにもそのままになっているので、昭和チックだったり、こんなにやりがいのあるところはなかなかないぞという風に思っています。もちろん、昭和チックなところの良さというのもあるのですが。

みなさんのお知恵を借りてできればと思っています。ありがとうございます。

#### 【山田委員長】

知事、どうもありがとうございます。

宝物の大きさ、素晴らしさに地元の方が気付いていないのではないかと、あるいは宿泊の問題、アクセスの問題をどうするかということがございました。いまご案内いただいたのは、ちょうど10年ぐらい前になるでしょ

うか、内閣府で知事が大臣をやっておられた時に、沖縄の離島振興ということで取り組まれた。

その結果、過去 10 年で離島の来訪者は 150%ぐらいになっているのですね。実際この 10 年で増えています。増やすばかりではいけないのでしょうけれども、振興というのはそれぞれの島が自分の島の良さを認識して、誘致をして、その結果、こういう形になっているのではないかなとも思うわけであります。

#### 【山田委員長】

さて、この委員会では東京の島のブランド化ということで議論していくわけですが、前回の委員会の後に、事務局で全ての島を訪問されたそうです。現地の役場、あるいは観光協会、特産品の生産者等々にヒアリングを実施して来られたということで、我々委員も現地を視察したことで島の状況がいろいろと見えてきたところですよ。

ブランド化における課題について、知事からもご指摘が二つ、三つございましたけれども、整理をされたとのことですので、議論を始める前に、事務局側からご説明をいただきたいというふうに思います。

#### 【事務局】

はい、それでは「東京の島のブランド化」における課題につきまして、ご説明させていただきます。

お手元のタブレットをご覧ください。

先ほど、委員の皆様からの視察のご報告にもございましたが、東京の島には、ブランド化に向けて、「強み」となり得る特産品、観光資源が数多くございます。

特産品では、椿油や海産物、南国フルーツ、焼酎、くさやなど気候風土や歴史に由来する魅力的な品々がございます。また、観光資源でも、雄大な自然景観や海のアクティビティ、火山の恵みである温泉や星空など、これらは、まさに東京の「宝物」といえるとしております。

その一方で、委員の皆様のご視察や事務局の現地ヒアリングなどを通じまして、今後、島の「強み」を伸ばしていく上での課題となる事象についても明らかになってきたかと思っております。

そこで、今回は、ブランド化を進めるにあたっての課題を 4 つに類型化いたしましたので、ご説明したいと思います。

まず第 1 点目ですが、「地域産品の生産体制」です。

島しょ地域の高齢化率は、都全体と比較して 10 ポイント程度高く、現地の声として後継者不足というのが懸念をされています。

また、椿油の製造など、先ほどもありましたけれども、伝統的な手法を用いた手作業の仕事は、非常に手間がかかり大量生産が難しい状況にございます。「販路を拡大したくてもなかなか手が回らない」といった現状を訴える現地の生産者の方もいらっしゃいました。

2 点目に、「交通アクセスの制限」です。

これは先ほどから何度かございましたけれども、今回の現地視察でも、実際に空港まで行って島に渡れないという事態が発生しております。島への往来には、「行けない」「帰れない」という交通機関の欠航リスクが常に伴うものでございます。またそうしたリスクは、翻って、流通や取引にも影響してきます。

3 点目、「ユーザーへの訴求体制」です。

昔ながらの島の「おもてなし」というのは、一方で、今日的なニーズと若干ずれが生じる場合があると思います。例えば、インスタグラムや現代的なカフェなど、新しいニーズへの対応も求められているかなと思っています。

また、島民の皆様にとっては当たり前の風景が、旅行者には素晴らしい絶景に映ることもあることなどから、島民の方々自身が島の資源価値をしっかりと把握するということが重要と考えております。

そして、島のストーリーを多くの人に共感してもらえるように、ガイドの方々にそれを語っていただいて、島のファンを増やしていくというのにも必要という委員のご意見もございました。

4 点目、「多様な顧客層への受け皿」です。

視察した委員からは、宿泊施設や飲食店の選択肢が不足しているということで、富裕層から若者まで、それぞれが楽しめる場所が必要であるとの意見もございました。

また、大島などは日帰りツアーも多く組まれておりますけれども、各島とも、もう一泊してもらうための取り組み、仕組みづくりとして、色々なアクティビティを充実させるということも重要になってきております。

以上、四つに類型化してご説明を致しましたが、これらの課題は、それぞれ単体であるのではなく、相互に関連していることから、それを解決させていくには一体的に取り組むことが求められると考えております。

また、島ごとの実情も違いますので、十分に考慮しながら、進めていく必要があると思っております。

以上、簡単ですが、事務局からのブランド化における課題についてご説明いたしました。

ただいま、皆様にお茶を出しておりますのは、先ほど知事からも紹介いただきました、「明日葉茶」になります。さっぱりとした風味ですので、ぜひお召し上がりください。

それでは、私の説明は以上ですので、山田委員長、引き続き、よろしくお願いいたします。

【山田委員長】

(明日葉茶は) ちょっと甘いですね。ほんのりと甘い。明日葉茶はお酒にも、焼酎にも入れて、青ヶ島でしょうか、作っておられますね。地元ではうまく生かしているようですが、明日葉のネーミングは誰が付けたかわかりませんが、良い名前だと思います。未来に希望が持てそうな、そういう名前です。

さて、そのお茶をいただきながらお話を進めていきたいと思いますが、事務局が説明してくれた課題について、確かに大きく4つ、地域製品の生産体制、交通アクセスの制限、ユーザーへの訴求体制、多様な顧客層のニーズへの受け皿。

私が訪問した大島も、85年から今日まで、人口が20%くらい減少している、とにかく歯止めが利かない状態です。逆に、Uターン・Iターンなどよ者が入って来て、沖縄の離島もそうですが、人を呼び込むことも考えていかないとけない。人手がないと生産体制も整わないということではないかと思っております。

いろいろと課題があるなかで、島民の方にも気付いてもらいながら、資源の発見や掘り起こしをやってい

きながら、多くの人たちにストーリーを伝えていく、ブランド化のストーリーを組み立てて伝えていく。そういう、クリエイションとコミュニケーションが必要になってくるのではないか、そのあたりを我々は提言としてまとめていかなければいけないと思っております。

## ■意見交換

### 【山田委員長】

こういう課題も踏まえつつ、ここからは、東京の島のブランド化について、委員の皆さんの自由なご意見をいただきたい、そういう時間にしていきたいと思っております。

ブランド化をどうやって進めていくのか、ブランド化のゴール、目標をどこに設定するかなど、そういうご指摘でも結構でございます。なんでも結構です。今回の視察を踏まえ、あるいは、行っておられない大洞委員も話を聞いてらっしゃる上でどんなふう感じられたのか、これまでのご自身の経験等々を踏まえながら、ご意見を頂戴したいというふうに思います。

ひと回ししますかね。指名をさせていただきたいと思っておりますが、河野委員、いかがですか。

### 【河野委員】

課題については、4つ、まさにそうかなと思いましたが、もう一つ、私が今回視察をした上で一番頭にこびり付いているワードが「お金を落とす仕組みがない、お金を落とせない」。

私は、現地に行ってお財布を出した瞬間がすごく少なかった。例えば、港に着いても何もないので、何かを買って、何かを試したいと思ってもそこで特にない。

あと、いろいろな場所、先ほどフォトジェニックというのがありましたが、いいなと思ってもお金を落とすところが多かった。

あと、おっしゃっていただいたように泊まる施設がとても少ない。選択肢の幅がないので、場合によっては、天候が良ければですが、日帰りで行って来れちゃう。結果的には、食でも、泊まるというところでも、お金を落とさなくて終わってしまう。となると、結局そこでの滞在時間がとても少なくなってしまうので、結果としてお金を起こすことが少なくなってしまう。

最近伸びている離島、例えば、沖縄もそうですし、屋久島もそうですし、ああいうところに行くと、半日ぐらい使えるアクティビティがあるのですよね。そうすると結果的に、泊まらざるを得なくなる。そうすると3食食べるし、お土産も買うし、朝もいる。そういう長時間使う場所がすごく弱いな、なので結果的に帰ってしまう。ここを何か仕組みをつくる必要があるかなと思っております。

いらっしゃる島の方々、人としては素晴らしいバイタリティをお持ちなのですが、やはりまだ魅力に気付いていらっしゃらないので、場合によっては、若者を誘致して、若者がそういう新しいアクティビティであったり新しいアイデアと一緒にやっていくみたいなのが必要。

おっしゃっていただいたように、もしかしたらネイチャーガイドも村の方がやられても良いし、一方で、外から来て気付いた若者がガイドさんになるとか、そういうものが出てくるのかと思いました。

私はもっともっと経済を潤すために、お財布を使いたかったです。

あと、銀行もコンビニもないので、もしお金を使うシーンがあったとしても、お金をおろせないということがありました。そこで、例えば沖縄がそうだったように、例えば電子マネーみたいなものももっと浸透すると、容易

に何かを買ったりもできるので、こういったものが、もしかしたら皆さんと一緒に仕組みとして作ったらいいのではないかと思ったところです。

【山田委員長】

ありがとうございます。ATM を探されたのですか。

【河野委員】

私と視察を一緒に行っていた者がお金が足りないという。結局、私がお金を貸したのですが、お金をおろすにも、おろす場所がなかった。それはすごくもったいないなと思いました。コンビニがないのは、ある種すぐには実現できないかもしれないが、もう少し何かできるのではないかと思いました。

【山田委員長】

ありがとうございます。中の企画力だけに期待をしてもなかなか難しい。島の皆さんは真心、素晴らしいおもてなしの心を持っておられますので、それを気付いていない人に、教えてあげる必要がある。

良いうのが、若者と馬鹿者とよそ者が必要だと。地域おこしの鉄則としていますが、要するに、馬鹿者というのは一生懸命、一心不乱に取り組むという意味だと思いますが、やはり地元の若い人たちに気付いてもらう、もちろん、年配の方、お年寄りの方にも気付いてもらう。

よそ者というのは、例えば屋久島に行くと、ガイドさんの多くはよそ者です。この間私が屋久島に行ったときに案内してくれたのは、東京生まれの方でした。寒い時には網走に行くらしい。北と南の端をガイドされていて、とても詳しい。そういう意味では、よそ者も必要ではないかと思いました。屋久島にもアクティビティがあります。ちゃんとそれをやると、半日どころか一日かかりますよね。泊らざるを得ない、泊まると美味しいフレンチが付いている、レストラン付きの良い宿がある、こういうところだと思います。

さて、今回行ってらっしゃらないのですが、大洞委員はいまお聞きになって、情報がシャワーのように委員のところに行っていると思うのですが、どんな風に受け止めましたか。

【大洞委員】

はい、皆さんのお話を伺っていて、確かに種はいっぱいあるのだなということと、なるほど確かにそうだろうなという課題があると感じました。

前回の沖縄の時は、ある意味、ちょうど航空会社が一社ではなくなったなど時流もありつつ、やはり同じような課題を抱えながら、中であつたいろいろな種が伸びていったという経緯もあった。それを最近考えた時に、東京の島を意識しているとテレビに登場するなど、小池知事が動く発信されることもあり、結構、世の中の関心も高まっているのではないのかなと思っており、こういうことでも、ある種、前向きの風が出てくるかもしれないと感じました。

もうひとつ私の関心があるのは、ひとつひとつ課題もあるし、種もあるのですが、これをやることで何をたらすかといったときに、観光客を増やすというもあるし、産品をより多くするというのもあるし、それから、この間知事がテレワークの話がされていましたが、島民を増やすという意味でのアウトプットというのものではないかと思いました。これをどういうやり方でやっていくのかというのをこれから考えていくということだと思います。

す。

ブランディングの時に、いまある要素を強化していく方法もあるし、何かないものを付加していく・付け加えていくというやり方もあるよねと、山田さんが良くいわれますが、沖縄の場合はどちらかというと強化に近い。竹富島に星野さんがリゾートホテルをつくったというところでは、ないものを作ったということでいろいろな相乗効果を生んだというのがあります。あるものの強化とはどういうものがあるか、いま事務局で出していた課題の一つ一つに対応していくというよりは、総合的に対応できるような方策を考えていくということだと思う。

もうひとつ、付加するということまで考えるのかどうか。今ないものを付け加えるということを考えた時に、例えば、本当になかったかわからないが、小豆島のオリーブのように、オリーブの活動を一軒一軒していく。お子さんができた時なのか、家庭を持たれた時なのか忘れましたが、島の方にオリーブの木を植えるというのをずっとやって、今ではオリーブの島になっています。そういう、もともとなかったものをみんなで付け加えていくということもある。

もっと言うと、特区みたいなものをつくってしまう。東京都でできるかわかりませんが、ある種のことは税金をどうにかするとか。例えば、どこかの企業と組んで何かする、例えば、三宅島をトマトの島にするとか、ある島は島ごと無農薬の産地にするなどの考え方もあるし。都がどこまで事業としてできるかわかりませんが、何かひとつ施設を作るなど、一緒になってやっていく方法もあります。そういうものをどこまで幅を広げて考えてやっていくか、議論をするところではないかと思います。

そこも含めて自由に議論して良いということであれば、いろいろ自由に発想すればよいのではないかと思います。とりとめのない話で恐縮です。

#### 【山田委員長】

ありがとうございます。オリーブの島というと小豆島が思い浮かびますね。実は小豆島は有名なごま油の会社の本社があります。ごま油は外から買ってきて、海外からも買ってきて、小豆島で絞っている。オリーブもなかなか生産量が不足しているので、年間の4分の3は海外から持ってきたオリーブを搾油して作っているという話を聞いたことがあります。オリーブの島というイメージが定着している。

特区をつくるなどやれば良いなと思います。あるところで、東京都のお茶を作りたいと言っている若者がいて、どうせつくるなら大島で作らなさいよ、と言ったらそれもいいかもしれないと言っておりました。そういう産業を興していくというのもありかなと思いました。

あとは、本島から橋で繋がっていないところだけで沖縄の有人離島は39あります。特に八重山地方の観光の入込をみると、平成18年が77万1,800人だったのが、平成28年には、124万8千人になっているということで、大変な人気を博している。それぞれの島がそれぞれの個性をもっていることを楓委員が仰っていました。

こちらは11しかないの、はっきり個性を打ち出しやすいのではないかと。11でどう手分けをするのか考えて、できれば周遊してもらいたい。交通の便なんかも、東海汽船や飛行機会社に働きかけるというのもあるのではないかと思います。

水陸両用の翼船もありましたね。滑走路がなくても海に着けるという飛行機もありますし、いろいろと考え出すとできるような気がします。楓委員いかがでしょうか。

#### 【楓委員】

調布と新島、神津島など、調布との航空路がある島との連携が色々な形で進んでいると聞いております。特に、新島と調布。新島からの朝一便で調布空港に届いた島の産品が、調布市内のいくつかのお店に直送され、新島メニューとして出されているようです。

そういう試みの中で、調布だけでなく、調布空港に近い多摩地区の方々が島に興味を持ち、実際に食べに行ってみようかと交流を深める動きが少しずつ進んでいると伺っていますので、その辺を押し広げるといのもひとつの選択肢ではないかと思います。

いま委員長がおっしゃっていた、水陸両用ではないのですが、水面から空に飛び立つ飛行機を利用した、瀬戸内海遊覧飛行が始まっています。料金は50分のフライトで大人一人3万2千円からの設定です。瀬戸内海のしまなみ海道の上を飛び、空から島の人や自動車など本当に手に取るように見え、まさに空中散歩です。定期便もありますが、外国からの富裕層の方向けなどの、チャーター飛行もあります。

先ほど知事がおっしゃられていたように、どこかの島に、ひとつハイクラスのホテルができると、そこをベースにした、“水空遊覧飛行”などオプションメニューが広がるので、そのベースをどのように作っていくのが、キーになると思います。

#### 【山田委員長】

どうもありがとうございます。そうですね、拠点というのがどこか必要でしょうね。

調布から、新島、神津島、大島、三宅島が飛んでいますね。羽田からは八丈島。

どのくらいの欠航率かわかりませんが、飛んだら本当に早い。

島と島はヘリコプター、船がある。

そういう意味では、横の連携をとるには、調布にいちいち帰って来なければいけないのは困りますので、横の連携も必要になってくるのかと思います。

確かに、先ほど大洞さんがおっしゃっていたように、最近よくテレビで見かけますね。先週の土曜日も青ヶ島が紹介されていました。その前には「ふしぎ発見」でもやっていました。「死ぬまでに一度見ておくべき景色の10選」に入っているということで、世界の中で、日本人が選んだわけではないのですが、青ヶ島、すごいですよね。上空から見ると島の中に島があるではないですが、二重構造になっている。確かにそういうすごい島ばかりですよね。それを知ってもらうことが必要、それに、中の方々がすごいぞと自信を持ってもらうことも大変重要ではないかと思いました。

色々ご意見を委員の皆さま方からいただいておりますけれども、時間の関係もございまして、このあたりで意見の交換を終わらせていただきたいと思います。

#### ■閉会

#### 【山田委員長】

振り返りになりますが、事務局の方でまとめていただいた4つの観点ですね。これを一個一個つぶしていくということも非常に重要かと思います。またやれることと、やれないこともありますよね。

交通アクセスなどは一番ハードルが高いと思いますが、何とかせねばと。

沖縄は結構、飛行機が飛んでおります。いろいろな交通の便もあります。その辺をどう考えるのか。



また、多様な顧客層の話もありました。外国の方だけでなく、高齢の時間的・お金のゆとりのある方だけでなく、若い方にも行っていただきたい。若い方だけでも困ります。そういう意味では、幅広い顧客層に対する受け皿も必要ではないかと思います。

そして、産業を興していく。産業といかないまでも、製品を作る体制をきちとつっていく。これもサポートしてあげなければいけない。

おそらく、委員会としては皆さまそれぞれ、豊かな経験も知恵もお持ちの方々ですので、いろいろなアドバイスを差し上げることも、地域にとって島々にとっては、重要ではないかと思った次第です。

「東京宝島」は、私が命名したわけではありませんが。たぶん、知事がおっしゃったのでしようが、この「東京宝島」のあるべき方向として、このプレミアム感をどういうふうブランドとしてつっていか、なかなか行けないぞというのもプレミアですよ。

そして、多くの人に共感を得られるようなストーリーを効果的に発信していく。

さらに各島の事情を踏まえつつ、多様な方々を有意にしてい、そういう体制の強化づくりではないかと思いました。

まだこれから訪問できるものであれば、欠航になってしまった島には私は行きたいなと思っております。

行って感じてみることもあります。そういう意味では、ぜひいろいろな方々に体験していただきたい、最後に、知事から一言お願いできますでしょうか。

#### 【小池知事】

ありがとうございます。

いくつか整理もできている部分があるかと思えます。

先ほどからの話の中にも、例えば椿油の採り方が手で採って手作業でという話もありましたが、徳島県の上勝町の株式会社いろいろは、おばあちやま達が、山野草を採取・出荷して生活費に充てて、パソコンなんか自由に扱っているというのでとても有名になっていますが、そこら辺もひとつの楽しみに変えてしまうとか。

それから、椿油は化粧品とか色々汎用性があるので、ここはひとつ、産品として大いに活用できるのではないかと私は思います。

利島のほうがしっかり産業としてやっている。大島は椿のための高校もあり農業としてやっている。ベースはあるので、ほんの少し背中を押すということで違ってくるのではないか。

それから、やはり島全体を通じて、エコを守るイメージであり、実質であると思えます。

そのために、再生エネルギーで自給自足、それから、例えば電気自動車を徹底してまわしていくなど、それぞれ特徴をつくるには、いま都としてもそういう施策で進めていますので、これを段々徹底していくということかと思えます。

それから、良いところだけでなく、火山を抱えているので、何十年かに1回爆発してしまう。住民の方々はそれがある種の周期で分かっているので、その辺りが、なかなか人口が戻らない理由になっていたりもします。ただそれは、防災の観点からしっかり整えていくということだと思えます。

いずれにしても、産業は観光が一番大きなもので、それに付随した形、それと同じ形で、農業、島酒、明日葉、くさや、塩などなど。それからガラス細工もコーガ石といってベネチアンガラスと成分が同じだそうで

す。

行けば行くほど面白いものを発見するわけですが、あと2つ、神津島と小笠原の母島に行くと、一応パ  
ーフェクトで全部行ったことになります。

今日伺ったいくつかのポイントをこれから少しまとめて、しっかりと一つずつ段取りを踏みながらできるように  
していきたいと思います。

宝はあるんです。どうやってそれをさらに背中を押すことができるか、その一点に尽きるのではないかと思っ  
ております。その押し方をどうするかだと思います。

また、数が少ないというのはむしろ希少価値に繋げる、それこそがブランディングだと思っております。

貴重なお時間と貴重なお知恵、ありがとうございます。

#### 【山田委員長】

小池知事、ありがとうございました。

希少価値の椿油、買って帰って、私は大胆に天ぷらを揚げてみましたが、うまかったです。でも、あれは  
顔につけたほうが良いですね。どこか有名な銀座あたりのお店とコラボしても、良い化粧品ができるのでは  
ないかとちょっと思いました。

本当に今日は委員の皆様、それから知事から、とても重要なご指摘がありましたけれども、ありがとうござい  
ます。

次回の委員会では、各委員のご専門の見地から、島のブランド化に向けた具体的なご提案をいただ  
ければというふうに考えております。

ぜひ結果を出す、成果を出すという気持ちで、取組をしていくべきと新たに決意をした次第でござい  
ます。

それでは最後に、事務局から連絡事項等はございませんでしょうか。

#### 【事務局】

次の委員会につきましては、10月ごろを予定しております。また別途、皆様方に日程調整をさせていた  
だきますので、よろしく願いいたします。

また、悪天候で中止となった視察につきましては、再度、実施できるように準備をいま進めておりますの  
で、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

#### 【山田委員長】

ありがとうございます。泳いででも行きます。

それでは、以上をもちまして、本日の東京都宝島推進委員会を終了いたしたいと思います。皆様には  
熱心なご議論と議事の進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

以上